

雜 錄

鐵鋼材の用途に関する調査 (大正十三年) (商工省鑛山局)

各種鐵鋼材の用途に付ては從來に於ても大體の觀測は行はれたりと雖も特に調査研究せられたるものなく遺憾、尠からざりしを以て大正13年度より之が調査を開始したり。然れども此種調査は相當困難なるのみならず今回は最初の企圖なりしを以て其結果に付ては必ずしも正確を期し難きも大體の觀察には支障なかるべし。

(1) 銑 鐵

銑鐵に就ては製鋼用銑鐵は直接需要者たる各製鋼所に就き其の所要量を調査することを得たるも鑄物用銑鐵は直接需要者に就き調査すること困難なるを以て内地需要額(毎年末に於ける在庫高に變化なきもの)と假定し内地生産額との合計)と製鋼用銑鐵との差額を以て鑄物用銑鐵の需要額も推定したり。

年次	内地産額	輸移入額	合計	輸移出額	差引需要額	需要額内譯	
						製鋼用	鑄物用
大正十二年	610,751	429,442	1,040,193	5,231	1,034,962	618,012	416,950
大正十三年	598,405	520,122	1,118,527	6,319	1,112,208	708,577	403,631

(2) 鋼 材

(1) 鋼材に就ては鋼材製造業者及主要販賣者輸入業者等に就き直接需要家に販賣したる數量を調査したり。即ち販賣數量中間屋。仲介業者。小賣業者に販賣したるもの及輸出したるものを除外し直接需要家に販賣したるもののみを採りたり。而して買受人が種々なる事業を兼營し用途を區別し難き場合には其の主たる事業に使用したるものとして計上したり(鋼材製造業者に就ては當局より直接調査し。販賣業者。輸入業者等に就ては道、府、縣を通じて調査したり)

(2) 本調査に依る各種鋼材の數量を内地需要額(内地産額と輸移出入差額との合計)と對比する時は別表に示すが如く其の合計に於て大正13年度に對しては約6割。大正11年乃至大正13年。3ヶ年平均に對しては約7割を占む

鋼材別用途別數量表

第1表 (單位佛噸)

用途 品目	鐵道 (電鐵を含む)		土木建築 鐵骨構造	造船	機 械 工 業	石油 瓦 斯 水 道	鑛山	其他	合計
	軌條及附屬品 LBS	134,867	3,704	1,672	702	47	2,869	6,279	150,140
45以上	125,320	2,202	1,245	348	0	1,328	2,570	133,013	
45未満	4,880	1,442	62	327	47	1,519	3,080	11,357	

附 屬 品	4,667	60	365	27	0	22	629	5,770
棒 鋼	32,569	135,146	71,926	119,317	2,065	15,176	48,178	424,377
丸 鋼	18,031	83,565	46,544	48,006	1,366	8,898	17,531	224,004
角 鋼	5,459	10,712	6,896	17,670	135	2,890	7,159	50,921
平 鋼	8,827	40,672	17,989	53,151	564	3,322	17,235	141,760
其 他	192	197	497	490	0	66	6,250	7,692
型 鋼	20,840	44,263	19,549	22,213	233	2,681	14,501	124,280
山 型	12,261	28,730	14,167	16,139	132	1,742	7,342	80,492
溝 型	6,779	6,423	2,117	3,681	39	481	2,602	22,122
工 型	1,308	8,744	1,589	2,297	62	455	4,211	18,666
Z 型	24	277	1,017	39	0	0	367	1,751
其 他	468	89	629	57	0	3	3	1,249
鐵 板	20,790	40,359	64,479	45,179	5,167	2,151	42,868	220,989
番物(亞鉛鍍錫 鍍を除く)	6,406	24,445	33,087	18,021	62	579	34,535	117,138
電 氣 鐵 板	553	1,738	251	2,193	100	1	3,076	7,915
其 他	13,831	14,176	31,138	24,958	5,005	1,571	5,257	95,933
ワイヤロッド	173	383	5	29,834	0	23	6,226	36,644
鋼管及鍊鐵管	2,529	3,042	4,127	8,849	5,644	506	28,214	53,211
其 他	4,643	1,705	4,399	51,290	0	57	1,449	63,543
合 計	216,411	228,602	166,457	277,380	13,156	23,463	147,715	1,073,184

鋼材別合計數量に對する各種用途の割合表

第 2 表

用途 品目	鐵 道 (電鐵を含む)	土木建築 鐵骨構造	造 船	機 械 鐵 工 業	石 油 瓦 斯 水 道	鑛 山	其 他	合 計
軌條及附屬品	0.898	0.025	0.011	0.005	—	0.019	0.042	1.000
45 以 上	0.942	0.017	0.009	0.003	—	0.010	0.019	1.000
45 未 滿	0.430	0.127	0.005	0.029	0.004	0.134	0.271	1.000
附 屬 品	0.809	0.010	0.063	0.005	—	0.004	0.109	1.000
棒 鋼	0.077	0.318	0.169	0.281	0.005	0.036	0.114	1.000
丸 鋼	0.081	0.373	0.208	0.214	0.006	0.040	0.078	1.000
角 鋼	0.107	0.210	0.135	0.347	0.003	0.057	0.141	1.000
平 鋼	0.062	0.287	0.127	0.357	0.004	0.023	0.122	1.000
其 他	0.025	0.026	0.065	0.064	—	0.008	0.812	1.000
型 鋼	0.168	0.356	0.157	0.179	0.002	0.022	0.117	1.000
山 型	0.152	0.357	0.176	0.200	0.002	0.022	0.091	1.000
溝 型	0.306	0.290	0.096	0.166	0.002	0.022	0.118	1.000
工 型	0.070	0.463	0.085	0.123	0.003	0.025	0.226	1.000
Z 型	0.014	0.158	0.598	0.022	—	—	0.208	1.000
其 他	0.375	0.071	0.504	0.046	—	0.002	0.002	1.000
鐵 板	0.094	0.183	0.292	0.204	0.023	0.010	0.194	1.000
番物(亞鉛鍍及錫 鍍を除く)	0.055	0.209	0.282	0.154	—	0.005	0.295	1.000
電 氣 鐵 板	0.070	0.220	0.032	0.277	0.013	—	0.388	1.000
其 他	0.144	0.148	0.325	0.260	0.052	0.016	0.055	1.000

ワイヤロピ	0.005	0.010	—	0.814	—	0.001	0.170	1.000
鋼管及鍊鐵管	0.048	0.057	0.083	0.166	0.106	0.010	0.530	1.000
其他	0.073	0.027	0.069	0.807	—	0.001	0.023	1.000
合計	0.202	0.213	0.155	0.258	0.012	0.022	0.138	1.000

用途別合計數量に對する各種鋼材の割合表

第 3 表

品目	用途	鐵道 (電鐵を含む)	土木建築 鐵骨構造	造船	機械 鐵工業	石油瓦斯 水道	鑛山	其他	合計
軌條及附屬品		0.624	0.016	0.009	0.002	0.004	0.123	0.042	0.140
45 以 上	lbs	0.579	0.010	0.007	0.001	—	0.057	0.017	0.124
45 未 滿		0.023	0.006	—	0.001	0.004	0.065	0.021	0.011
附 屬 品		0.022	—	0.002	—	—	0.001	0.004	0.005
棒	鋼	0.150	0.591	0.432	0.431	0.157	0.647	0.326	0.396
丸	鋼	0.084	0.366	0.280	0.173	0.104	0.379	0.119	0.209
角	鋼	0.025	0.047	0.041	0.064	0.010	0.123	0.048	0.048
平	鋼	0.041	0.178	0.108	0.192	0.043	0.142	0.117	0.132
其 他		—	—	0.003	0.002	—	0.003	0.042	0.007
型	鋼	0.096	0.193	0.118	0.079	0.018	0.113	0.098	0.116
山	型	0.057	0.126	0.085	0.058	0.010	0.074	0.050	0.075
溝	型	0.031	0.028	0.013	0.013	0.003	0.020	0.018	0.021
工	型	0.006	0.038	0.010	0.008	0.005	0.019	0.028	0.017
Z	型	—	0.001	0.006	—	—	—	0.002	0.002
其 他		0.002	—	0.004	—	—	—	—	0.001
鐵	板	0.097	0.177	0.388	0.163	0.392	0.092	0.291	0.205
番物(亞鉛鍍錫 鍍ヲ除ク)		0.003	0.107	0.199	0.065	0.005	0.025	0.234	0.109
電 氣 鐵 板		0.003	0.008	0.002	0.008	0.007	—	0.021	0.007
其 他		0.064	0.062	0.187	0.090	0.380	0.067	0.036	0.089
ワイヤロッド		—	0.002	—	0.108	—	0.001	0.042	0.034
鋼管及鍊鐵管		0.012	0.013	0.027	0.032	0.429	0.022	0.191	0.050
其 他		0.021	0.008	0.026	0.185	—	0.002	0.010	0.059
合計		1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000

本調査による數量と内地需要額との比較表

別 表

品 名	本調査による數量	大正11年需要額	自大正11年3ヶ年平均 至大正13年 需要額
軌條及付屬品	150.140	181.409	197.201
棒 鋼	424.377	452.292	365.353
型 鋼	124.280	238.152	210.353
板 鋼	220.989	566.947	470.619
線 材	36.644	113.157	96.292
筒 管	53.211	66.505	54.990
其 他	63.543	(63.543)	(63.543)
合計	1,073.184	1,682.005	1,458.381

- 備考** (1) 大正13年度及最近3ヶ年平均需要額は毎年末に於る在庫高に變化なきものと假定し内地生産額と輸入の差額との合計を以て需要額とせるものなり
- (2) 大正13年及最近3ヶ年平均需要額の欄に括弧して本年調査による數量と同一數量を計上したるは本調査の其他の内容不明なりしを以てなり

**製鐵鋼業振興對策に關する近況** 本邦製鐵鋼業は歐洲大戰中異常の發達を遂げたるも戦後著しく打撃を蒙り未だ各設備の全工程を發揮するに至らず。年々多量の鐵鋼を輸入して其缺を補ふの狀態にあるを以て經營組織並に設備の改善を施工し生産の分野を定め能率を増進し生産を増加する必要あり。之の事情は戦後大に國論を喚起し政府は本春製鐵鋼調査會を設け鐵鋼國策の樹立を審議し本會も亦製鐵鋼業振興に關する意見書を提出せるも爾後當局大臣の交迭其他の事情に依り實行の運に至らざりしが片岡商工大臣は就任以來熱心に對策の考究を重ねたる結果遂には自ら八幡製鐵所を視察し次で製鐵鋼調査會官廳側委員の意見を聽取し又製鐵鋼調査會民間側委員の意見を徴したる上11月20日に至り當業代表者、神戸製鋼、淺野小倉製鋼、川崎造船、大阪製鐵、釜石鑛山、日本鋼管、住友製鋼、東京鋼材、日本製鐵、東洋製鐵、東海鋼業、三菱製鐵、富士製鋼、八幡製鐵（當業者として）を官邸に招致し本省よりは柵瀬、四條兩次官、野村參與官、三井鑛山局長其他關係官列席の上商相擊頭に大要左の如き挨拶をなしたり。

我國に於て消費せらるゝ鐵材は内地生産のもの、外國品とを比較するに内地製品は僅に、2分の1に過ぎない而も内地の生産能力は尙ほ其餘地があるに拘らず斯く輸入品の多きに達するを見るは、其所に何等かの缺陷あるを立證するもので甚だ遺憾に堪へぬ。然るに鐵は一國の政策として自給自足でなければならぬ性質の事業であるが此の如き今日の實情では其目的の達成が困難と考へられる。若し供給が需要を超過すると云ふのであれば或は競争の爲めに價格を引下げ不振に陥り易い事があり得るのであるが之に反し需要の半分を輸入にまつる實情としては缺點はないとは思はれぬ。鐵鋼業の國策として今後採るべき方策に就ては之を指示する事。主務大臣として支障はないが當業者に於て先づ自ら立案する事が妥當と思ふのであつて銑鐵鋼材其他各部類により委員を擧げて具體的に攻究するがよいと思ふ。官營製鐵所も又民營製鐵業の發達を助成するに力を惜まぬ方針であるから民間當業者に於て自發的に具體案を考究して提示せられ度い此の國策問題は久しい懸案であり既に調査會其他の機關でも種々の方法を立てられたのであるが纏まらぬのであつて此の如きは一瀉千里的に行ふに限るべきもので何事を措いても全速力に考究せらるべきものと思ふ自分は22日から歸省して來月1日迄で不在であるから其間に立案せられ度い。と希望意見を述べられたり。

尙ほ商工大臣の抱懷せらるる方法の要旨として示されたるは次の如し

○本邦製鐵鋼業を安全に發達せしめんとす○目前の小利に競争するは本邦商工業の通弊なり○生産の分野を定め共同の力に依りて生産を改善し販路を擴張するの要緊切なり○八幡製鐵所が損失を招かざる範圍に於て民業を壓迫せざる様協定の成立を見る事必ずし

も不可能ならざる可し○他日半官半民の經營に移す事或は適當ならんも製鐵所現今の會計法が民間のものと異なり外部に對し不明なるが故に之を明にする様會計法を改むるの必要もあらん。之れ等は政府に於て決定す可き問題なり○將來鑛石其他原料を得ん爲めには共同購入の途を講ずる事○銑鐵の生産販賣の共同機關を設くる事○官民鋼材の生産の分野を協定し之が販賣價格の協定をなす事。之れに必要な機關を設くる事○輸送運賃の遞減を圖る事○將來の起業は許可を受くる事 等にして爾來民間當業各社（製鐵所長官も當業者として參加す）は連日連夜に亘り審議を重ね略ぼ成案を得たるを以つて。鐵鋼協議會代表三好白石、牧田の三氏は12月12日午前9時片岡商相を官邸に訪ね、その内容を詳細説明して10時半引取つた。

### 答 申 書

#### 一、鐵鋼協議會設立に關する件

生産の分野を定め共同の力に依り生産を改善し以て本邦製鐵鋼業の安全なる發達を期せんが爲め當業者の協議機關とし、別紙規約に依り鐵鋼協議會を組織すること。

#### 二、製品共同販賣に關する件

銑鐵に關しては組合組織により共同販賣機關を設立するを妥當と認め別紙規約草案を作成せり鋼材に關しても、又共同販賣の方法に依るを妥當と望む、これが組織及び製品の種類範圍に關しては各社の實狀を斟酌し適當なる取極めをなすこと

以上の組織により生産の分野を定め且つその増産を期す。

#### 三、原料共同購入に關する件

銑鐵の原料については差し當り前項の銑鐵組合をして共同購入をなすを適當と認むるも將來原料の確保に就ては或は獨立機關を設け、若しくは他に適當なる方法を講ずること

製鋼の原料に就ては將來必要に應じ相當なる共同購入機關を設くること

#### 四、輸送運賃輕減に關する件

本邦鐵道運賃の高率なるは生産原價の上に別紙参考書の通り重大なる負擔なり、これを遞減せば生産原價を輕減し、同時に多大なる國産開發を助長すべきに依り、鑛石石炭その他別紙品目に對し毎噸哩 1 錢 2 厘の程度に遞減せられんことを希望す

以上は下名等が貴大臣閣下の御趣旨に基き逐條審議に及びたる項に有之何れも本邦鐵鋼業の發達に對し頗る重大なる影響あるものと存じ候得共、尙ほ現在の情況に鑑み御趣旨の効果を促進し且つその完成を期せんが爲めには左の 4 項に關し至急政府當局の適當なる措置を講ぜられんことを希望するものに有之候

#### 一、關稅定率改訂に關する件

曩に當業者より提供したる建議を急速に御採用實施せられんことを希望す

#### 一、關稅定率法第五條の活用に關する件

別紙参考案御参照の上最も急速に適當なる御處置を採られ度希望す

一、製鐵獎勵の期間延長に關する件

製鐵獎勵法第二條及び第三條の期間は事業本來の性質とその現状等に鑑み適當の延長を計られんことを希望す

一、工業資金充實に關する件

工業資金の融通を圓滑ならしむることは本邦斯業の現状に於て最も必要なる工場設備の改善を遂げ高能率の向上を計るがため緊要なる事項なるを以て急速に適當なる方法に依り工業資金の充實疏通を計られんことを希望す 以上

大正十四年十二月

製 鐵 鋼 各 會 社

商工大臣 片 岡 直 溫 殿

### 鐵 鋼 協 議 會 規 約

第一條 本會は鐵鋼協議會と稱し製鐵製鋼及壓延業の全部或は一部を營む者を以て組織す新たに加はせんとする者ある時は本會員全部の同意を以て之を決す

第二條 本會は會員同心協力して我國鐵鋼業の發達を促進し鐵鋼の自給自足を完成し進んで市價の安定を計り製品の海外輸出をなし得るに至らしむるを目的とす

第三條 本會事業の要項左の如し

- (一) 原料の確保及びその經濟的供給を計る事
- (二) 工場設備並に經營組織を改善し廉價生産を力むる事
- (三) 従業員及び職工の能率増進を計る事
- (四) 製品の分野を調節し重複作業を避け生産を單純化し産額の増加を計る事
- (五) 原料共同購買の方法に依り生産費の低減を計る事
- (六) 製品共同販賣の方法により需給を調節し冗費の節約を講ずる事
- (七) 製品規格の統一を計る事
- (八) 同業に關する諸般の調査に力め事業の發達に資する事
- (九) 作業技術の研究に關し互に聯絡を計り應用に便する事
- (一〇) 輸入統計の改善を計る事
- (一一) 本會の目的を達するに必要な建議又は交渉を行ふ事

第四條 本會隔月一回例會を開く但し會長に於て必要と認むる時は臨時會を開くものとす

第五條 例會及臨時會には各會員の代表者の外所屬員の出席を爲さしむる事を得但し所屬員は議決に加はらざるものとす

第六條 例會及臨時會の議長は會長とす但し會長事故ある時はその都度出席會員の互選を以て定む

第七條 會員の互選を以て會長一名、幹事三名を置き幹事の互選を以て内一名を幹事長とす

第八條 會長及幹事の任期は二ケ年として重任を妨げず

第九條 本會の經費の負擔方法は別に之を定む

第十條 本會規約改正は會員三分の二以上の同意を要するものとす (以上)

### 銑鐵共同組合規約要項

第一條 組合は左の事業を営むを以て目的とす

(一)銑鐵の製造に要する原料の共同購買、(二)銑鐵の共同販賣、(三)八幡製鐵所に於て銑鐵拂下をなす時はその受託販賣

第四條 組合は株式會社日本製鋼所、大倉鑛業株式會社、釜石鑛山株式會社、南滿洲鐵道株式會社及三菱製鐵株式會社を以て創立しその出資額を各一萬圓とす

第十一條 組合員の銑鐵製造に要する原料はその必要に應じ組合において共同購買をなす

第十二條 組合員は組合を経ずして銑鐵の販賣をなす事を得ず、但し特種銑鐵及滿洲朝鮮及北海道における地賣並に製鋼委託の目的を以て八幡製鐵所に引渡すものはこの限りに非ず

第十三條 組合は組合員の自家用銑鐵並に前條但書の銑鐵を除く出銑量全部を買取るものとす但需給の状況により買付數量を制限することあるべし

第十四條 前條の買付價格は毎半期組合員總會において決定す

第十五條 組合は指定販賣人を設け銑鐵の販賣を取扱はしむ

**片岡商相の希望** 當業者代表の三氏から説明を聞いた所によれば大體自分の腹案に近いものであるやうだからその實現に賛意を惜まない、しかしその詳細なる具體的内容たとへば作業の分野に關する品種、數量、組合長 組合員の氏名とか、それぞれの出資額とか構成分子の要素については尙知りたいと思ふ、それでこれを議會開會前に取まとめるやうに希望して置いた。

**製鐵所拂下鐵價低下の要求** 製鋼懇話會では明年3月八幡製鐵所にて拂下げる製品價格に關し種々審議した結果、現在では海外よりの輸入品が相當低落して居るから、その權衡上右拂下價格の低下を要求すべく申合せたが、八幡製鐵所が果して此要求に應ずるや否やは疑問視されて居る、何となれば八幡製鐵所官營で利益を度外視して居る關係上、拂下價格は内地品價格よりやゝもすれば安價であつたので、民間側は非常な壓迫を受けて居たものである、故に從來民間側の希望は自己製品の權衡上拂下價格は相當高價なるべきことを望んだものであつた、然るに今回は反對に拂下價格を低下されたいと云ふので、其の程度如何についても慎重研究を要するものあり殊に政府の鐵關稅引上案が實施されるか否かと云ふ重大問題が引懸つて居るので、兎角簡單にかたづける譯に行かぬからである、即ち徒らに製鐵所が民間側の希望に應じて安價に拂下を行ふにした處で、關稅が引上げられるとなれば莫大な損失を招くことになるし、それかといつて高價に拂下を行はんとする場合幸ひに關稅引上案が通過せねば問題がないが、通過した場合は民間業者が多大の壓迫を蒙ると云ふ矛盾した結果を見ることになるので、政府筋では此問題は今俄に決定しがたいものであると言つて居る。

**八幡の作業上に及ぼす** 大冶の労働争議 支那漢冶萍煤鐵公司に労働争議起り作業の中止既に2ヶ月を經過せんとしてゐるが同司と特別の關係を有ち且又毎年約10萬噸の鉄鐵の供給を受け居る八幡製鐵所としては其作業の速かに復舊を希望し物質的の援助迄で申し送りしも何等回答なく又作業の復舊し居るや否やも不明なるが最近の情報に依れば依然復舊せぬのみか尙長期に亙るかも知れぬので製鐵所にては本年度は全然送つて來ぬものと觀測し計畫變更する事になつたと。右に付き某關係者の談に依れば、漢冶萍公司是從來とても當てにならざりしも今度は全然見込が付かなくなつたが。幸ひ當方の熔鑪の出鉄状態は順調でそれに戸畑作業所よりの熔鉄海上運搬も成功してゐる上に戸畑には約8萬噸のストックを持つて居るので、本年度は困らぬが。然し來年度に入つても斯る状態なれば相當考慮を要するが、唯鉄鐵を此儘送り來らざる事とすれば借款の返済の方に餘程影響するので此方は重大問題とならう。と

**製鐵所砂鐵鑪の精煉法特許出願** 八幡製鐵所で長谷川検査課長が主任となつて去る大正9年以來着々と研究を進めてゐた「砂鐵精煉法」は數回の實驗で科學的には完全に成功し目下は經濟的に實用化されるか否かの研究中であるがこれもすでに相當の眼鼻がついたらしく今度この精煉法の特許権を取るべく14日特許局に中井長官の名義で申請したが特許の要領は、砂鐵の完全利用を目的とするもので砂鐵を電氣爐により精煉して電氣鉄鐵を製造しその砂鐵中に含有するチタニウムはこれを鑪滓中に吸収してチタン酸20%以上を含ませこの鑪滓は再び電氣精煉法によりチタン鐵を精煉し若しくはそのまゝ製鋼法における鑪滓調節劑としても使用するといふにある。

**製鐵所二月渡先物狀況** 製鐵所の1月渡先物拂下げ當時關稅引上げなどの好材料に注文殺到し豫定拂下げ量の殆んど2倍の申込みを見たほどで鐵市場は復活するものと見られ前途に曙光を認めたやうに期待されたが2月渡にはこれと反對に、豫定數量にも達せぬ少量の申込みにまたまた前途はやゝ悲觀の傾向を示すやうになつた然しこれは一時的の現象であるかも知れぬ製鐵所側の觀測は、2月渡先物に現はれた狀況は數回に餘り取入れすぎたためでもつて直ちに市場の反映と見るのは皮相の觀である、市場のストックは順調に消化されてゐて外國からの注文も控手氣味にあるから市場の底は矢張り依然として變らず前途は樂觀してかなりであらう、丁度山縣販賣部長はその邊の事情調査に上京してゐるゆゑ部長渡來せば確とした方針も樹てられるからその時をまつて價格その他にも改正が加へられやうと語つてゐた。

**特殊鋼板入札** 八幡製鐵所特殊鋼板ブラックシート(13枚物)の入札は3日行はれたが總數量600噸主なる入札者は岩井320噸安宅100噸鈴木170噸で價格は前回よりも約5分高の250圓平均である。

**東洋製鐵商況** 8日重役會を開き當期利益金10萬7871圓は前期繰越金と合計118萬5701圓を後期繰越とする案を査定し來る26日午後3時より日本工業俱樂部に於て定期株主總會を開き右利益金處分案並に監査役2名任期滿了改選の件を附議する筈。